

ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスからみる子どもの貧困対策 ーサマーラーニングプログラムを中心にー

渡辺 百香

アメリカ最大の都市であるニューヨーク市では、子どもの貧困問題が社会的な課題となっており、COVID-19の影響による状況の悪化が懸念されている。ニューヨーク市における子どもの貧困問題に対し、社会経済的地位に関わらず全ての市民がアクセス可能な活動として、ニューヨーク公共図書館における図書館サービスが存在する。なかでも、子ども達の成長段階に合った教育支援サービスは、教育機会の不平等から生じる貧困の連鎖を断ち切るための取り組みとして注目される。特に、夏期に開催される読書と学習のプログラムは、夏休み期間中に読書や学習の機会を十分に得ることが出来ない低所得家庭の子ども達の課題にアプローチしているものと考えられる。

本研究の目的は、ニューヨーク公共図書館が提供する教育支援サービスのうち、サマーラーニングプログラムを事例として、公共図書館がどのような方法で貧困層の子ども達の学びを支援しているのかを明らかにすることである。

研究の方法は、(1)政策的視点として、ニューヨーク市の子ども達の貧困の特徴についての資料調査、(2)図書館の視点として、サマーラーニングプログラムの変遷と現在の取り組みを明らかにすることを目的とした文献・資料調査、プログラムにおける子供の貧困対策の側面を明らかにすることを目的としたプログラム動画の SCRIPT の分析、(3)教育支援サービスに関する利用者の視点を明らかにすることを目的とした資料調査の3点である。

研究の結果、(1)政策的視点では、ニューヨーク市では教育格差や貧困の連鎖が課題となっており、子ども達が平等に質の高い教育にアクセスすることができる環境づくりが必要とされていることがわかった。(2)図書館の視点では、ニューヨーク公共図書館のサマーラーニングプログラムは、これまでのサマリーディングプログラムを発展させたプログラムであり、あらゆる背景を持った子ども達に平等な学びの機会を提供する工夫が施されていることを明らかにした。また、ニューヨーク公共図書館のサマーラーニングプログラムは、「人々とのつながりの強化」、「逆境を乗り越える力の育成」「読書と学習習慣の形成」「経済面での配慮」という4つの側面から、貧困層の子ども達の学びを支えている可能性が高いという点を解明した。(3)利用者の視点として、ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスを利用している子どもや保護者は、各サービスの重要性を認識していることがわかった。

本研究を通して、ニューヨーク公共図書館の教育支援サービスは、図書館の多様な資源を活用し、あらゆる背景を持った子どもを受け入れるための工夫を施すことで、貧困層の子ども達の学びを支えているという点を解明した。今後の公共図書館における役割の1つとして、子ども達の平等な学びを支援することが挙げられる。特に、SCRIPTの分析で明らかになった4つの側面を強化した教育支援サービスを提供することが重要であると考えられる。

(指導教員 小泉公乃)